

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	訪問支援ひかりっこ		
○保護者評価実施期間	R8年2月1日		～ R8年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	R8年3月1日		～ R8年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2 (訪問支援員のみ)	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	R8年2月1日		～ R8年3月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	13	(回答数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	R8年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童の発達上良い面や課題面を整理して分析ができる	観察を通して、対象児童の様子だけでなく、仕草や会話、無意識の行動など、細かな点まで注目している。 観察や支援は園時代から継続して行っている場合も多く、長期間を経た変化や新たな課題にも注目している。 毎回の観察では、支援目標を立てた上で報告書に記載をしている。	観察上の支援目標については、個別支援計画の内容を反映させたものであるが、説明の充実や振り返りを通して保護者の理解度を高めるとともに、支援の終結も見越した取り組みを行う。
2	心理的、作業療法的な観点から見立てを行うことができる	作業療法士を迎え、全身・手先とともに機能向上の新たな見方と支援を行えるようになった。	定期的な共有会の開催や、必要に応じた協力をしながら、心理面・機能面を組み合わせた児の見立てと支援を行う。
3	保護者に対する適切な説明や配慮を行い、満足を得られるような助言や支援を行うことができる	訪問支援報告書については、児の様子を詳細に知るだけでなく、保護者や先生にとっても新たな気づきを得られるような記載になるよう工夫をしている。	園・学校によって、必要とされる観察や支援の幅と制限は様々であり、支援者側にとっては説明が不十分であった。そのため、年度替わりのタイミングから関係性作りとともに説明や報告を心掛けていく。保護者に対する説明や配慮の充実として、支援の受け入れ先である園・学校への配慮の点を考察した。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラムなど、家族が研修・情報共有できる機会の提供	児童発達支援センターとして、保護者用のプログラムを展開しているが、情報発信が十分でなかった	市民だよりに提示している内容を含めて、保護者用のプログラムの提供情報は随時発信をして周知を図る。
2	緊急時の対応について	重要事項説明書など、契約時に説明をしつつ、日々の訪問支援ではそれらに触れる機会が少なかった	緊急時の対応については随時確認をしつつ、重要事項説明書の内容についても定期的に振り返ることとする。
3	プライバシーに配慮した面接室の提供	面談時間の調整や、児童発達支援とともに面談室の調整について十分ではなかった	面接室については個室を用意しているが、なるべく個室面談が行えるように時間の調整を図っていく。